

ノ-リフテイ^ング ケアBioLab

令和2年度の取り組み

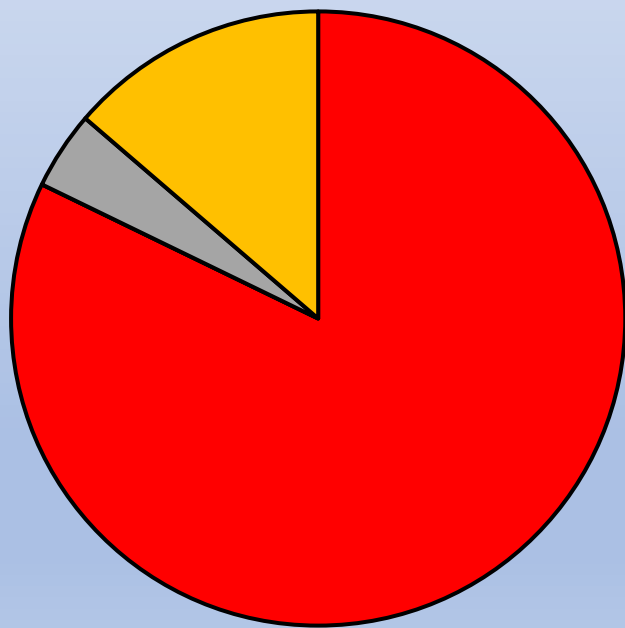
全体での取り組み

- アンケートの実施
- 腰痛調査
- 靴をかかとのあるものへ変更
- ラジオ体操と腰痛予防体操の実施
- ノーリフティングケアコーディネーター養成講座への参加
- ノーリフティングケア周知の為の研修（各拠点毎）

アンケートを実施

ケアホーム拠点

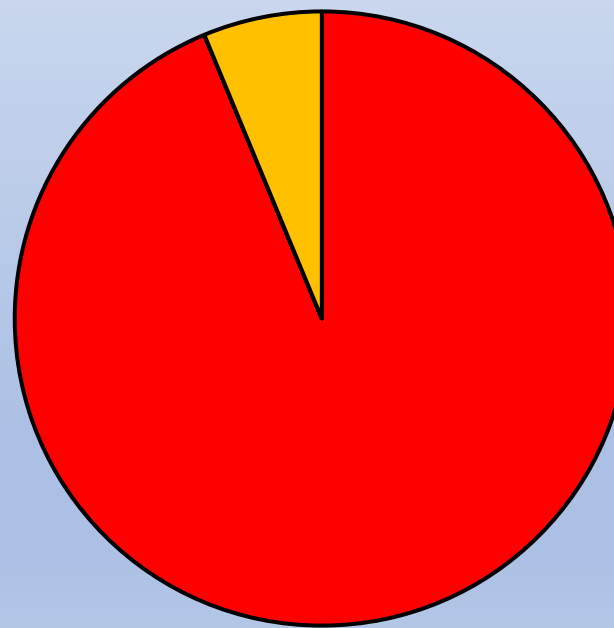
ノーリフティングケアは



■必要である ■必要でない ■未回答 ■未提出

あいの拠点

ノーリフティングケアは

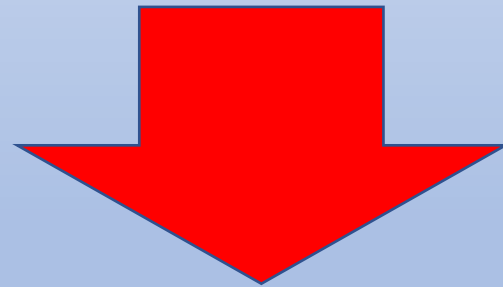


■必要である ■必要でない ■未回答 ■未提出

結果

ケアホームでは約 8 割
あいの中では 9 割の職員が必要と感じている。

ノーリフティングケアを行うために



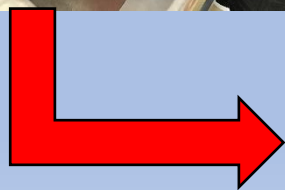
- 環境整備、業務改善が必要。

多床棟の取り組み

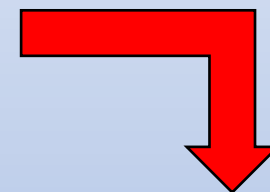
- 『意識改革』を目標とし、ノーリフティングケアとはどういうものなのかを周知する。
- ノーリフティングケア＝機械の導入ではないことを伝える。

重いものを持たないことで腰痛予防

深いシンクから重いポリタンクを持ち上げることをやめました。



排泄台車のごみ袋を持ち上げることをやめ、
ごみ袋専用のカートを用意しました。



物品の導入

- **ムーブボード**→対象利用者様へベッドから車椅子移乗時に。
- **スタンディングリフト**→対象利用者様を決め、リハビリ訓練の場面で使用中。
- **昇降式ベッド**→排泄介助や移乗介助、医務の処置の場面で介助がしやすくなったとの声が聞かれている。
- **その他**→床走行式リフトを多床棟でも使用したいとの声が聞かれる。

今年度の反省と来年度の目標

- **職員の意識改革**
- **物品の使用率を上げるための環境作り**
 - ① **スライディングシート**
 - ② **スタンディングリフト**

ユニット棟の取り組み

・床走行式リフトについて

1 1月より床走行式リフトを導入して頂き、1ヶ月間、環境整備と使用方法の研修を行いました。

1 2月1日～入居者様4名を決め、本格的に使用開始しております。

ラジオ体操、腰痛予防体操を行って

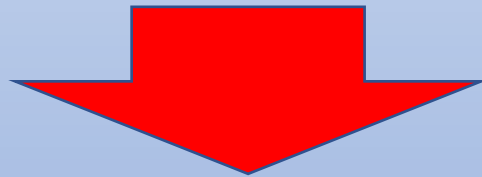
- 普段、動かさない所を動かす事ができ良かった。
- 身体をほぐす事で怪我の予防になっていると思う。
- 業務前に身体を動かす事により、身体が気持ち良く、すっきりして業務に入れた。
- 意識して行う事により腰痛が起こりにくい気がする。
- 腰痛が悪化していないので、効果があると思う。
- 普段、あまり動かす事のない関節や筋肉を動かす事ができるので良かったと思う。これからも継続して欲しい。

床走行式リフトの使用頻度

氏名	12/1~12/31	1/11~11/17	1/18~1/24	1/25~1/31	2/1~2/7
A様	74.5%	100%	94%	95%	97%
B様	68.2%	97%	97%	95%	100%
C様	30%	82%	90%	84%	78%
D様	14%	100%	100%	95%	11%

床走行式リフトを使用してみても

- ・最初の1ヶ月は、使用方法が分からない。
- ・1人で操作するのは不安。との声が聞かれました。
- ・記入用紙に空欄が多く、記入忘れも目立ちました。
- ・兎澤キヨ様の最初の1ヶ月はカエデ側に設置しているリフトが貸し出し中だった為、使用率は低下しています。



そこで…

- ・再度、チェック用紙を使用して、使用できなかった理由を伺いました。空欄に対しては各ユニットリーダーさんより声を掛けて頂き、不安な職員には個別に対応しました。

床走行式リフトを使用してみても



- ・使用できなかった理由としては
 - ① 日勤がいた為、2人介助で行った。
 - ② 使用中で、使用できなかった。
 - ③ 業務に忙しく、時間がなかった。との声が聞かれています。

2 / 1 ~カエデ側の床走行式リフトを貸し出し中の為、使用率が低下しています。

※使用したい時に近くに用具がないと使用しない事が分かりました。

床走行式リフトを使用してみても

- ・ 床走行式リフトを使用してみても

＜入居者様の変化＞

- ・ 移乗の際、怖がっていた入居者様が、リフトを使用することにより、怖がらなくなった。
- ・ 痣や傷が少なくなった。
- ・ 入居者様の苦痛が少なくなった。

＜職員の声＞

- ・ 身体の負担が減り、楽に移乗する事ができた。腰の負担が軽減できた。
- ・ 一人で不安なく、利用者様を安全に移乗する事ができる。
- ・ 入居者様にも苦痛なく移乗する事ができた。

＜入居者様の声＞

- ・ 移乗時の動きがスムーズで「いい機械を入れてもらって良かった。」と話されておりました。
- ・ 「安心して車椅子に乗れる」との声も聞かれました。

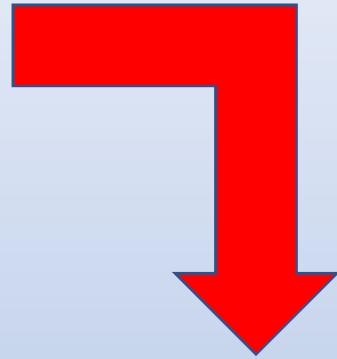
デイサービスの取り組み

- ・パーティション全てに
ローラーの取付



- ・電解水に使用のポリタンク
にキャリーの取付





- ・ **中間浴に手摺りに取付け、棚を移動して頂きベッドの両サイドどちらからでも、介助者が介助できるよう場所の確保**



- ・ 移乗介助が必要な利用者様が休んで頂いているベッドを昇降可能なベッドにし、リフトが使用できる場所への移動。
- ・ 中間浴でのムーブボード使用
- ・ 介助時のベッドの高さや姿勢の勉強会



特養あいのの取り組み①

5月～11月

- ① 台車購入(各ユニットへ1台ずつ設置)
- ② ノーリフティングケアの考え方周知の研修
- ③ 物品の研修
(ムーブボード、フレックス、スライディングボード、スライディングシート)
- ④ 対象利用者様の居室に物品の使い方などの貼り紙を設置

特養あいのの取り組み②

12月～

- ① 物品のチェックシート作成、居室の環境整備
- ② 床走行式リフトの導入、研修



チェックシート



環境整備



リフトの導入

③ チェックシートで分かった物品使用頻度

1月

	さざんか	ふじ	ぼたん	合計
Mボード	21	0	0	21
Fボード	1	5	91	100
Sボード	30	0	61	91
Sシート	55	33	118	206

・書き忘れも考えられるが1月に比べると全体の使用頻度が半分に減っている。

2月

	さざんか	ふじ	ぼたん	合計
Mボード	10	1	0	11
Fボード	0	6	57	63
Sボード	23	0	33	56
Sシート	23	15	44	82

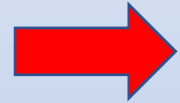
・習慣的に使ってもらえるように声掛けと研修の継続が必要。

・物品を使用して介助する良さを理解している職員は一定数いる。

④物品使用状況のアンケート結果と まとめ

- ・ 1日1回以上物品を使用している職員(職員16人中)

10 / 16



使用率62.5%(可10人、不可2人、未提出4人)



まとめ

- ・ ボードやシートを継続して使用し、以前よりも腰や肩の痛みが軽減。
- ・ 利用者様の状況に合わせて物品を変えながら安全に使用可能。
楽しんで取り組むことが出来ている。
- ・ 「時間がない、自分で移乗した方が早くて楽」という職員の声もあった。

SSはなわあいの取り組み①

台車の購入

ポータブルトイレ、ポリタンクに入った電解水を運ぶ際に
使用しています。

購入後の職員の声



- ・ポータブルトイレを浴室から居室までの移動に負担を感じなくなった。
- ・台車に乗せたままホースを使って汲むようになり、持ち上げる回数が極端に減った。

SSはなわあいの取り組み②

物品の研修と使用

ムーブボード



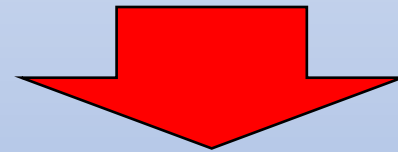
- ・ 現在 2 名の利用者様に使用中。
- ・ 使用開始して 1 カ月は 2 人介助で行っていたが、今では職員 1 人での移乗が可能。
- ・ 積極的に使ってもらえており、「移乗が楽になった。」との声が聞かれている。

SSはなわあいの取り組み②

物品の研修と使用

スライディングシート

- ・研修を2回行い、3月より対象利用者様に使用している。対象者様の入所によって使わない期間がある。



- ・使い方を忘れない為に、職員間で定期的に使い方を確認する時間を設ける。
- ・チェック表を作成し、使用した際に記入してもらい使用頻度を把握していきたい。



SSはなわあいの 来年度の目標

- ・ ムーブボードを継続して使ってもらおう。**
- ・ スライディングシートの使用率を上げる。**
- ・ リフトを使えるよう研修をしていく。**

来年度に向けて

- **職員の意識改革の継続**
- **物品の使用率を上げる。**
- **各リーダーへの協力要請**

来年度に向けて

要望…

- **研修への参加（ベーシック、アドバンス）**
- **実際にノーリフティングケアに取り組んでいる施設への施設見学。**
- **物品の購入
（床走行式リフト、ムーブボードなど）**